

## 2. 子どもたちの成長と学びを支える環境の充実

【目指すまちのイメージ】
子どもの笑顔が輝くまち

### <基本施策>

- (1) 子ども・子育て支援の充実
- (2) 学校教育の推進と学習環境の充実

## 2. 子どもたちの成長と学びを支える環境の充実

### (1) 子ども・子育て支援の充実

2. 子どもたちの成長と学びを支える環境の充実

└ (1) 子ども・子育て支援の充実

└ (2) 学校教育の推進と学習環境の充実

#### 目指す姿

子どもが、多様な支援のもとで健やかに成長し、安心して過ごしています。

#### ◇成果指標

1. 低年齢児（3歳未満児）待機児童数[SDGs]

現状値

3人

目標値

0人

2. 「この地域で、今後も子育てをしていきたいと思う」と回答した割合（3歳児健康診査票）

現状値

69%

目標値

現状値以上

#### 現状と課題

- 令和5年4月に「こども基本法」が施行されたことにより、すべての子どもや若者が将来にわたって幸せに暮らせる社会の実現を目指す取り組みが始まり、同年12月には、身体的・精神的・社会的に幸せな状態（ウェルビーイング）で生活できる「こどもまんなか社会」の実現を目指した「こども大綱」が策定されました。子どもの意見が尊重され、最善の利益が優先されることなど、「こども基本法」の理念に基づいた施策の推進が求められています。
- 国の今後の保育施策は、これまでの「待機児童対策を中心とした『保育の量の拡大』」から「質の高い保育の確保・充実」、「全てのこどもの育ちと子育て家庭の支援」、「保育人材確保・テクノロジーの活用等による業務改善」の3つの柱を軸に推進することとされています。こうした中、本市では、就学前教育・保育施設については共働き世帯の増加による保育ニーズの高まり、特に低年齢児の保育ニーズの上昇傾向が続いていることから、これらのニーズに合った必要量の確保を図るため、民間機能の活用を含め就学前教育・保育施設の最適化を進める必要があります。また、延長保育や病児保育等の多様なニーズに対応した保育サービスの充実や、豊かな地域資源を活用した保育活動の展開を図るとともに、保育人材を確保し育成する体制づくりや、ICTの活用による保育現場のDXを推進する必要があります。
- 市では、令和6年4月に「亀山市こども家庭センター」を設置し、子ども・子育てに関するワンストップ窓口としてあらゆる相談を受け付け、必要な支援や関係機関等につなぐソーシャルワーク機能の強化に努めています。一方、妊娠期から出産に至るまでの医療体制を近隣市に頼らざるを得ない状況の中で、妊産婦の安心を支える環境整備が必要となっています。今後も多様化する支援ニーズに対応するため、切れ目のない母子支援体制の充実・強化を図るとともに、子育て世帯が孤立しない環境づくりや、母子保健DXの推進に取り組む必要があります。さらに、国の「成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針」を受け、性別を問わず、性や妊娠に関する正しい知識の普及を図り、健康管理を促すプレコンセプションケアを推進する必要があります。
- 市では、経済的自立や子どもの福祉増進に向けて、支援を必要とする子育て世帯への相談支援等の取り組みを展開しています。今後も、目まぐるしい社会情勢の変化や国の制度改正に迅速かつ確実に対応し支援の実効性を高めるため、相談支援体制の重層化と質の向上が求められています。また、家庭が抱える課題の複合化・深刻化が進む中、ヤングケアラーを含む多様な支援ニーズに対応するため、関係機関との連携を一層強化し、地域全体で子どもと家庭を支える体制づくりが求められます。



- 子育て世帯への経済的な負担の軽減については、子ども医療費助成制度により窓口無料化等に取り組み、制度の充実を図っていますが、都道府県や市町村間でのサービス水準・制度内容に格差が生じています。今後は、国や他の自治体の動向等を注視しながら、安定的かつ持続可能な制度運用を図るとともに、子育て世帯を取り巻く社会状況に応じた、適切な経済的負担の軽減に取り組む必要があります。
- 特別な配慮や医療的ケア児など、多様な支援を必要とする子どもは増加傾向にあります。すべての子どもの健やかな成長を支えるため、児童発達支援センターや医療機関など関係機関と連携し、個々のニーズに応じた適切な支援につなげていく必要があります。
- 市では、放課後や長期休業期間において、保護者の就労等により居場所を必要とする小学生に対し、適切な遊びと生活の場を提供しています。共働き世帯の増加等に伴い、そのニーズは高まっていることから、こうした居場所を確保するとともに、放課後児童クラブを安全・安心に過ごすことができる場所として整備していくことが必要です。一方、亀山児童センターについては、「こどもの居場所づくりに関する指針」に基づき、子どもの居場所としてのさらなる機能強化が期待されていることから、現施設の老朽化等を踏まえた施設整備やニーズに合わせた活動の充実を図る必要があります。

## 施策の方向

### 1 多様化する保育ニーズへの対応と保育環境の充実

- ◆子育て世帯の就労状況の変化等に留意し、認定こども園を基本とした就学前教育・保育施設の再編を進めるとともに、子どもが安全に過ごせる環境の整備を推進します。
- ◆多様な保育・子育てニーズに対応するため、休日保育や「こども誰でも通園制度」等の実施体制の確保に取り組みます。
- ◆ICTを活用し、保育現場の業務の効率化と保育サービスの利便性の向上を図ります。
- ◆持続可能な保育体制を確保するため、人材確保に努めるとともに、研修の実施により人材育成に取り組みます。
- ◆地域との交流や地域資源の活用により、保育所等での体験活動を推進します。

#### 関連指標

◇低年齢児（3歳未満児）待機児童数【SDGs】（再掲）

現状値	目標値
3人	0人

### 2 育みの希望を広げる支援の充実と切れ目のない支援体制の強化

- ◆すべての妊産婦と子ども・子育て世帯に対して、包括的で切れ目のない相談支援を推進します。
- ◆妊婦の緊急時における搬送体制の確保や産後ケアの拡充等により、出産や育児に対する不安感の軽減を図ります。
- ◆地域子育て支援センターの利用者ニーズに応じた子育て講座を開催し、相談機関としての機能を強化します。
- ◆母子保健サービスの利便性の向上や業務の効率化を図るため、母子保健DXを推進します。
- ◆不妊・不育症治療を受ける人の経済的負担軽減を図ります。

	◆将来の健やかな妊娠や出産につなげるため、早い段階から正しい知識を得て、健康的な生活を送れるよう、性別を問わずプレコンセプションケアを推進します。								
関連指標	◇地域子育て支援センター利用者数      ◇妊婦等包括相談支援の相談受付件数 <table border="1"> <tr> <th>現状値</th> <th>目標値</th> <th>現状値</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>22,120人</td> <td>▶ 33,000人</td> <td>2,386件</td> <td>▶ 2,500件</td> </tr> </table>	現状値	目標値	現状値	目標値	22,120人	▶ 33,000人	2,386件	▶ 2,500件
現状値	目標値	現状値	目標値						
22,120人	▶ 33,000人	2,386件	▶ 2,500件						
3 子どもの育ちを支える社会的支援の強化	◆亀山市要保護児童等・DV対策地域協議会を中心に、保育所や学校など関係機関と連携し、要保護家庭や特定妊婦等への支援の充実を図ります。 ◆ひとり親世帯への生活支援を行うとともに、様々な制度に関する情報提供や相談体制の充実を図ります。 ◆子どもを安心して育てられるよう、医療費助成制度の充実・効率化等による子育て世帯の経済的負担の軽減を図ります。								
関連指標	◇要保護児童対策協議会ケース会議開催回数 <table border="1"> <tr> <th>現状値</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>89回</td> <td>▶ 現状値以上</td> </tr> </table>	現状値	目標値	89回	▶ 現状値以上				
現状値	目標値								
89回	▶ 現状値以上								
4 児童発達支援の充実	◆こども家庭センターにおける相談支援体制の充実に加え、児童発達支援センターなど関係機関との連携を強化し、個々のニーズに応じた適切な支援につなげます。 ◆子どもの健全な成長と発達を支えるため、就学前からの切れ目のない支援の充実を図ります。 ◆医療的ケアなど特別な支援を必要とする子どもの入園・入学を支えるため、関係機関と連携し、きめ細かな支援体制を整備します。								
関連指標	◇5歳児健康診査受診率 <table border="1"> <tr> <th>現状値</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>—</td> <td>▶ 100%</td> </tr> </table>	現状値	目標値	—	▶ 100%				
現状値	目標値								
—	▶ 100%								
5 子どもの居場所づくりの推進	◆放課後や長期休業期間において子どもが安心して過ごせる居場所を確保するため、放課後児童クラブの運営支援や長期休暇期間中の子どもの居場所づくりに取り組みます。 ◆子どもの居場所に対する多様なニーズに対応するため、児童センターの機能強化を進めます。								
関連指標	◇放課後児童クラブの充足率      ◇児童センター延べ来館者数 <table border="1"> <tr> <th>現状値</th> <th>目標値</th> <th>現状値</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>▶ 現状値</td> <td>7,590人</td> <td>▶ 11,000人</td> </tr> </table>	現状値	目標値	現状値	目標値	100%	▶ 現状値	7,590人	▶ 11,000人
現状値	目標値	現状値	目標値						
100%	▶ 現状値	7,590人	▶ 11,000人						

■幼児教育・保育の実施状況（各年3月1日現在）

（1号認定）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
利用児童数	583	537	509	511	327

（2号認定）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
利用児童数	803	804	805	806	749

（3号認定）

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	0歳	1・2歳	0歳	1・2歳	0歳	1・2歳	0歳	1・2歳	0歳	1・2歳
利用児童数	94	403	94	410	89	390	85	399	86	390

（資料：子ども政策課）

## 2. 子どもたちの成長と学びを支える環境の充実

### (2) 学校教育の推進と学習環境の充実

2. 子どもたちの成長と学びを支える環境の充実

(1) 子ども・子育て支援の充実

(2) 学校教育の推進と学習環境の充実

#### 目指す姿

子どもが、それぞれの個性と能力を発揮し、地域とともに安全で快適かつ多様な学びの場で、成長しています。

◇成果指標	現状値	目標値
1. 学校評価アンケートによる学校満足度 (子どもと保護者)	子 91.8%	子 93.0%
	保 91.5%	保 93.0%
2. 自分には、よいところがあると思う子どもたちの割合 (小6と中3)	現状値	目標値
	小 84.7%	小 86.0%
	中 85.0%	中 86.0%

#### 現状と課題

- 本市の教育を取り巻く環境は、他の自治体と同様に、少子化による児童生徒数の減少や学校施設の老朽化等に起因する課題が顕在化していることに加え、地域や家庭における教育力の低下等が懸念されています。こうした時代の流れを的確に捉え、国の「教育振興基本計画」や「三重県教育施策大綱」の理念を踏まえ策定した教育の基本方針である「亀山市教育大綱」に沿って、地域全体で子どもを育む文化の醸成に努め、持続可能で魅力ある教育環境の整備と教育力向上の取り組みを進める必要があります。
- 本市の学校施設では、建築物や設備の老朽化が顕在化しており、「亀山市学校施設等長寿命化計画」に基づく効果的な改修が求められます。また、将来にわたって教育基盤を維持するためには、計画的かつ効果的に長寿命化改修を行い、トータルコストの縮減と予算の平準化を図る必要があります。同時に、気候変動による猛暑日の増加等に対応するため、特別教室や体育館の空調設備を整備し、児童生徒や教職員が安全・快適に学習・教育活動を行える環境を整えることが必要です。さらに、少子化による児童生徒数の減少を見据えつつ、すべての子どもに質の高い教育と支援を提供できる教育環境を維持していくため、教育資源の有効活用による効果的な学校運営手法の検討や学校運営を支える人材の確保に向けた取り組みが必要です。また、引き続き、学校給食の安全・安心かつ安定的な提供と地産地消による食育の推進が求められます。
- 市では、児童生徒の学力向上を目指し、個別最適な学びと協働的な学びの両立を図っています。特に、AI技術も活用した個別最適な学びの提供と、学びを深める環境の整備が重要です。また、部活動の地域展開等への対応を契機に、さらなる校務の効率化を図り、時間外在校等時間の削減を進めることで、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保することが求められています。一方、特別な支援が必要な児童生徒や不登校児童生徒に対しては、教育ニーズに応じた支援体制を整備し、地域とも連携した多様な学びを支える環境の充実が求められます。さらに、進展するデジタル技術に対応しつつ、GIGAスクール構想等により整備されたICT環境の維持と適切な時期における更新が必要です。
- 市内のすべての小中学校では、「地域とともにある学校づくり」を目指し、コミュニティ・スクールの取り組みを推進しています。学校と保護者、地域が一体となって子どもたちを育むため、今後も、地域の人材や施設を最大限に活用しながら、放課後の居場所に関する取り組みなど、学校と地域が連携・協働する体制の強化が求められます。



- 家庭生活を通じて幼少期から基本的な生活習慣を身に付けられるよう、引き続き、「かめやまお茶の間10選（実践）」を推進し、地域・家庭の教育力を向上させる取り組みを進めていく必要があります。
- 地域による見守り活動や青少年団体の取り組みが継続されている一方で、SNSの普及や犯罪の多様化により、子どもを取り巻く危険は複雑化・広域化しています。こうしたことから、地域全体での見守りを担うための人材育成や、子どもに関わる市民・団体の資質向上に取り組むとともに、警察や近隣自治体との連携強化が求められています。また、成人を迎えた若者の主体的な参画の場の提供など、社会人としての自覚や社会参加意識の醸成につながる取り組みの継続が求められています。

施策の方向

1 安全・安心で快適な学校環境の整備

- ◆学校施設の長寿命化改修及び特別教室や体育館への空調設備の計画的な整備や検討を進めるなど、教育環境の質の向上に取り組めます。
- ◆民間活用等の柔軟な運営手法の導入や効果的な教育資源の活用等により、教育活動に係るトータルコストの縮減を図りつつ、質の高い教育環境と適切な支援の提供に努めます。

関連指標

◇小中学校特別教室の空調設備設置率	◇学校評価アンケートにおける満足度（教育環境）								
<table border="1"> <tr><th>現状値</th><th>目標値</th></tr> <tr><td>57.3%</td><td>100.0%</td></tr> </table>	現状値	目標値	57.3%	100.0%	<table border="1"> <tr><th>現状値</th><th>目標値</th></tr> <tr><td>—</td><td>80.0%</td></tr> </table>	現状値	目標値	—	80.0%
現状値	目標値								
57.3%	100.0%								
現状値	目標値								
—	80.0%								

2 持続可能な学校給食の提供と食育の推進

- ◆学校給食の調理体制を継続的に確保し、すべての児童生徒に安全・安心な学校給食を安定的に提供します。
- ◆地元農産物を活用した「かめやまっ子給食」の継続的な実施により、地産地消による食育を推進します。

関連指標

◇学校給食における地元農産物購入割合				
<table border="1"> <tr><th>現状値</th><th>目標値</th></tr> <tr><td>63.0%</td><td>65.0%</td></tr> </table>	現状値	目標値	63.0%	65.0%
現状値	目標値			
63.0%	65.0%			

3 すべての子どもが学び続けられる教育の充実

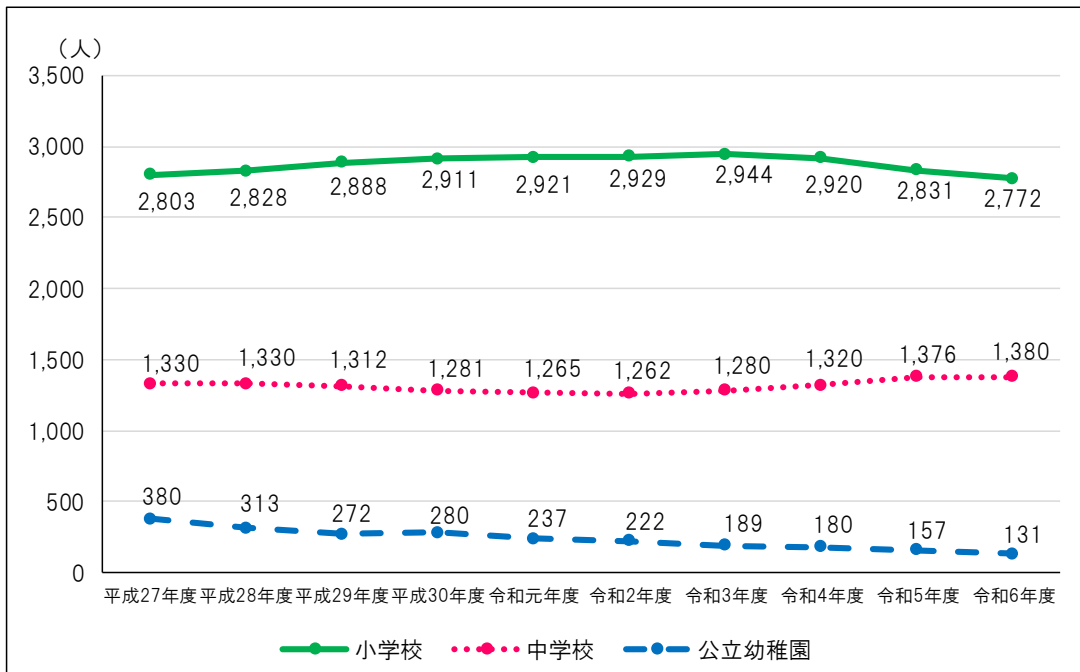
- ◆一人ひとりの自己肯定感の向上と確かな学力の定着に向け、A I型教材の活用や学習環境に課題を抱える児童生徒への支援等を通じて、多様な状況に応じた学習支援の環境や体制の充実を図ります。
- ◆一人ひとりの特性や事情に応じた不登校等へのきめ細かな支援や特別支援教育の充実に加え、教育と福祉の連携を強化し、多様な家庭環境への支援にも対応できる包括的な体制の整備を図ります。
- ◆人権教育の総合的・系統的な推進に加え、いじめや問題行動の未然防止・早期対応を徹底し、一人ひとりが安心して学べる環境の確保に努めます。

関連指標

◇子どもの授業理解度	◇安心して学べる体制づくりをしていると感じる保護者の割合										
<table border="1"> <tr><th>現状値</th><th>目標値</th></tr> <tr><td>小 90.8%</td><td>小 92.0%</td></tr> <tr><td>中 86.4%</td><td>中 89.0%</td></tr> </table>	現状値	目標値	小 90.8%	小 92.0%	中 86.4%	中 89.0%	<table border="1"> <tr><th>現状値</th><th>目標値</th></tr> <tr><td>87.1%</td><td>87.5%</td></tr> </table>	現状値	目標値	87.1%	87.5%
現状値	目標値										
小 90.8%	小 92.0%										
中 86.4%	中 89.0%										
現状値	目標値										
87.1%	87.5%										



■市内公立幼稚園及び小中学校の児童生徒数の推移



(資料：学校教育課)

